

令和 6 年 5 月 9 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01703

研究課題名（和文）ことばの教室への入級審査に用いる発話・言語能力包括的アセスメント法の開発

研究課題名（英文）Development of a comprehensive assessment tool for speech and language ability to be used in determining entry into the resource room for speech-language disorders

研究代表者

宮本 昌子（Miyamoto, Shoko）

筑波大学・人間系・教授

研究者番号：70412327

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,650,000円

研究成果の概要（和文）：ことばの教室への入級審査のためのチェックリスト作成において、専門家への相談歴等についての回答は、その後のことばの教室の利用を予測できる可能性があり、情報を得ておくことは有効であることが確認された。担当教員による回答から、言語障害以外に発達障害等を対象とした指導も行っている現状が明らかにされ、発達障害に関する項目を設定することの重要性についても示唆された。本チェックリストの言語障害の項目については通常学級の児童との差が明らかであり、判別可能であると考えられた。本チェックリストを使用することで通級に通う必要のある児童を、ある程度検出できる可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的な意義としては、言語障害の通級指導教室に通う児童と一般の児童の間で、就学前の健康診査や相談歴の状況において違いがみられたこと、言語障害だけでなく発達障害のある児童も指導の対象になっていた現状が明らかにされたことが挙げられる。

社会的な意義については、言語障害を主訴として指導を受ける通級を判断するために教育現場で使用可能な評価ツールを作成したことである。本チェックリストは、現在、通級を利用する児童とそうでない児童の言語障害の有無を判別が可能であることが検証された。

研究成果の概要（英文）：In preparing a checklist for screening for admission to resource room for speech-language disorders, it was confirmed that information on the history of consultation with specialists may be useful in predicting subsequent use of the resource room. The responses of the teachers revealed that they are currently teaching students with developmental disabilities in addition to speech-language disorders, suggesting the importance of including items related to developmental disabilities. The differences between the speech-language disorder items in this checklist and those of children in regular classes were clear, and it was considered possible to discriminate between these two groups. It was suggested that this checklist could be used to detect children who need to attend classes to some extent.

研究分野：音声言語障害学

キーワード：言語障害 ことばの教室 発達障害 入級審査 チェックリスト

1. 研究開始当初の背景

(1) ことばの教室における言語聴覚士によるコンサルテーションとアセスメントの必要性

言語障害特別支援学級あるいは通級指導教室(通称「ことばの教室」)には、児童を指導する教員が存在しながら、以下 2 点の理由で児童の障害の専門的な把握については言語聴覚士の協力を必要としている。

ことばの教室において経験年数が 3 年以下の教員が 46.5%に及ぶことが挙げられる(久保山, 2017)。

さらに、担当教諭において特別支援学校教諭免許状を有する者は 45.0%であることも影響する(久保山, 2017)。

この実態の改善は喫緊な課題であるが、実際には今すぐに制度を変更できる状態ではなく、現状を踏まえながら、教員と言語聴覚士がうまく連携を取る方策を思案する必要に迫られている。特に、言語聴覚士の専門性としてアセスメント能力を期待されている点(松本, 2015)から考えると、児童の入級を審査するアセスメントに貢献できる可能性は高い。

比較的ベテランの教諭が集まりやすいといわれる東京都内のことばの教室においても、入級審査時のアセスメント内容には以下のような問題がある。

課題自体が旧く、現代の子どもに即していない絵や単語等の刺激が多く難解なため、子どもの注意集中が困難である。

検査内容はベテランでない一般的な教諭が実施するには専門性が高い。

以上の問題を改善するために、言語聴覚学を専門とする専門家が入級審査用の評価ツールをリニューアルすることは意義があると考えられる。

(2) 「ことばの教室」に入級する児童の実態とは

現在、ことばの教室の実態として単独の障害ではなく、複数の障害を併せ有する事例が増加していることが報告されている(吉田, 2011; 久保山, 2017)。その具体的な調査結果として、発達障害の診断を有する児童の割合が 10.2%、診断はないが担当者からその傾向があると評価された児童は 19.5%にのぼるという報告があり(藤井, 2016)、入級時に整理されるべき問題が複雑化する傾向にあることも予想される。

吉田(2011)は、ことばの教室での重複の事例を取り上げ、主訴の解決だけに注目し、その背景にある重要な問題を見逃すことになる危険性を指摘した。

発達障害を併せ有する場合、「ことばの教室」と「自閉症・情緒障害通級指導教室」のどちらへの措置が適切であるか、現段階では適格な判断基準はない。この判断が入級時のスクリーニング結果で適切になされることは、指導効果に直結し、児童の学校生活での QOL の向上にも大きく関わらるだろう。

(3) 複数の障害を併せ持つ事例に関する海外での報告

アメリカでは併存する言語障害についての疫学研究は進んでいる(Briley & Ellis, 2018 他)。一方、併存障害に関する現場での支援についてはスクールクリニシヤンの実践報告が日本より多い。例えば、吃音と構音障害を併せ持つ場合、両障害の指導を平行して行う“Blended treatment”と、吃音に対して直接的に介入し構音障害は間接的に行う方法(Rutner, 1995)等の実践が報告される。

(4) ことばの教室における「音声障害」支援の視点を入れることの重要性

日本のことばの教室では主に、言語発達障害、吃音、構音障害の三つが主な支援対象とされ、音声障害については範疇ではなかった。声の評価は GRBAS 尺度を用いて聴覚的印象で評価するものであり(牧山, 2012)、ことばの教室でも評価の実施が可能である。この小児のガラガラ声といわれる「嘔声」はいじめにもつながりやすいとされ、適切な対応が求められるが、現状ではアセスメントの対象ではないことは問題であり、評価の視点に取り入れたいと考える。

2. 研究の目的

ことばの教室・通常学級の児童を対象に、発話・言語能力の包括的アセスメントツールを作成することを目的とする。

対象となったことばの教室の児童について、教員に尋ねた診断名・評価の結果を示し、障害種の傾向を確認する。

保護者に行った「相談歴に関する項目」の回答結果から、どの項目が、入級時のスクリーニングとして、児童側の支援ニーズの有無を明確に判別し得るのか、ということを明らかにする。

本研究で使用した保護者による言語発話障害に関するチェック項目の集計結果と、ことばの教員から聴取した指導対象の比較を行い、当該項目の妥当性を検討する。

本研究で使用した項目の集計を行い、通常学級に在籍している児童と通級指導教室に通う児

童で保護者記載の問診項目の比較を行う。

により、指導が必要な児童をスクリーニングできるかどうかについて、基準値を設定することで検討を行う。

3. 研究の方法

言語障害の専門家 8 名により入級の適切さをスクリーニングするためのチェックリスト項目を作成した。質問紙の構成は、相談歴 10 項目、自閉スペクトラム症 (ASD) 4 項目、注意欠如・多動性障害 (ADHD) 3 項目、学習障害 (LD) 3 項目、言語発達障害 3 項目、発達性協調運動障害 (DCD) 2 項目、構音障害 7 項目、音声障害 2 項目、吃音 4 項目である。通常学級在籍児およびことばの教室に通う児童の保護者を対象に質問紙調査を実施した。あわせて教員にも指導している障害種別を尋ねた。

4. 研究成果

(1) 結果

通常学級在籍児 42 名 (1 年生 23 名, 2 年生 19 名), ことばの教室に通う児童 134 名 (1 年生 55 名, 2 年生 79 名) が分析対象となった (表 1)。回答した 123 名の概要についても表 1 に示したとおりである。

ことばの教室の教員が回答した、児童の障害種について図 2 に示した。該当の多い順は、構音障害 (32.1%)、吃音 (27.6%)、構音障害 + 吃音 (7.5%)、言語発達障害 (4.5%)、構音障害 + 言語発達障害 (4.5%) であった。22.0% の児童が発達障害に単独あるいは重複で該当した。

相談歴について保護者に尋ねた結果を、通級を利用しない通常学級の児童 (以下、通常学級群) とことばの教室を利用している児童の (以下、ことばの教室群) 群において比較した結果を表 2 に示した。「乳幼児検診での指摘あり」については両群において有意差がみられなかったが、3 歳児検診については、ことばの教室群において、指摘のあった者の割合が有意に高い結果となった。さらに、小学校入学までに専門機関で受けた療育については、心理療法と言語聴覚療法について、同じく、ことばの教室群において、受けた者の割合が有意に高い結果となった。就学前に特別支援学級を勧められた、就学後に在籍学級変更を勧められた割合については、両群で有意差がみられなかった (図 2)。これまでに個別検査実施を勧められた割合については、ことばの教室群が 30.3% と有意に高い割合を示しており、受けた経験がある割合についても 60.6% を示していた。ことばの教室群で個別検査を受けた者の中で、38.6% の児童が問題ありの評価を受けた。一方、通常学級群の中でも、検査を受けた者の中で、7.1% が問題ありの評価を受けていた。

次に、保護者がチェックリストに回答した結果から、ことばの教室で最も該当割合の平均値が高い障害種は、順に吃音 (37.0%)、言語発達障害 (31.2%)、発達性協調運動障害 DCD (30.8%)、構音障害 (29.7%) であり、通常学級での結果と比較し有意に高い割合を示した (図 4)。一方、ことばの教室の ADHD (29.2%)、ASD (13.8%)、LD (24.6%) への該当割合は、通常学級の結果との比較で有意差がみられなかった。音声障害は両群ともに 1% 未満であった。

同様に、保護者がチェックリストに回答した結果から、各障害の cut-off 値を設定した。ASD 児 (n=7) は cut-off 2 点で感度 43% 特異度 90%、ADHD 児 (n=3) は cut-off 1 点で感度 67% 特異度 48%、LD 児 (n=12) は cut-off 2 点で感度 83% 特異度 90%、言語発達障害児 (n=16) は cut-off 1 点で感度 88% 特異度 95%、DCD 児 (n=3) は cut-off 2 点で感度 67% 特異度 71%、構音障害児 (n=71) は cut-off 1 点で感度 93% 特異度 93%、音声障害は通級教員の回答では該当した者がいなかった。吃音 (n=49) は cut-off 1 点で感度 98% 特異度 94% となった。

(2) 考察

まず、ことばの教室への入級審査のためのチェックリストにおいて、専門家への相談歴、検査を受けた経験等についての回答は、その後のことばの教室の利用を予測できる可能性があることから、情報を得ておくことは有効であることが確認された。担当教員による回答から、言語障害以外に発達障害等を対象とした指導も行っている現状が明らかにされ、発達障害に関する項目を設定することの重要性についても示唆された。

次に、本チェックリストの言語障害の項目については通常学級の児童との差が明らかであり、判別可能であると考えられるが、発達障害においては判別が困難である可能性が示唆された。今後は、発達障害に関する項目の検討が求められる。さらに、音声障害への該当が少ない点については慎重な解釈が必要であり、構音障害に該当した児童への精査の方法を分かりやすく示すなどの工夫についても検討する必要がある。

最後に、本チェックリストを使用することで通級に通う必要のある児童を、ある程度は検出できる可能性が示唆された。一方で、対象障害によってはサンプルサイズが小さいために精度が低くなっていることや、検出に有用でなかった項目もみられたため、今後はそれらの検討が必要であると考えられる。

【文献】

Briley, P. M., & Ellis Jr, C. (2018) The coexistence of disabling conditions in children who stutter: evidence from the National Health Interview Survey. *Journal of Speech, Language, and Hearing Research*, 61(12), 2895-2905.

藤井和子(2016) 言語障害通級指導教室における発達障害を併せ有する児童の実態と指導上の課題. *特殊教育学研究*, 40, 107-118.

久保山茂樹(2017)平成 28 年度全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査報告書. 国立特別支援教育総合研究所.

小林倫代(2019) 「ことばの教室」がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割に関する実証的研究. 国立特別支援教育総合研究所.

田口恒夫・小川口宏 (1987)新改訂版ことばのテストえほん. 日本文化科学者.

牧山清(2012)嗚声の聴覚心理的評価 (GRBAS 尺度). *日本耳鼻咽喉科学会会報*, 115(10), 930-931.

松本美代子 (2015) 特集1 特別支援教育における言語・コミュニケーション障害がある子どもの教育の今 特別支援教育への言語聴覚士の関与の現状と課題. *コミュニケーション障害学* 32 (1), 43-47.

Ratner, N. B. (1995) Treating the child who stutters with concomitant language or phonological impairment. *Language, Speech, and Hearing Services in Schools*, 26(2), 180-186.

吉田麻衣(2011) ことばの教室の目指すもの:教育における言語指導のあり方. *コミュニケーション障害学*, 28(2), 93-99.

表1 対象者の概要

ことばの教室に通う児童	134名	1年生 55名 (41.0%)	2年生 79名 (59.0%)	男子 97名 (72.4%)	女子 37名 (27.6%)
通常学級の児童	42名 (46名-通級児2名)	1年生 23名 (54.8%)	2年生 19名 (45.2%)	男子 23名 (54.8%)	女子 19名 (45.2%)
	人数	教師の経験年数		通級指導の経験年数	
ことばの教室の教諭	123名	14.2年 (平均)		8.8年 (平均)	
		9.3 (標準偏差)		6.6 (標準偏差)	
特別支援教育免許所有 (視覚障害)	特別支援教育免許所有 (聴覚障害)	通級指導の経験年数 (知的・肢体・病弱)			
12名 (9.8%)	34名 (27.6%)	39名 (31.7%)			

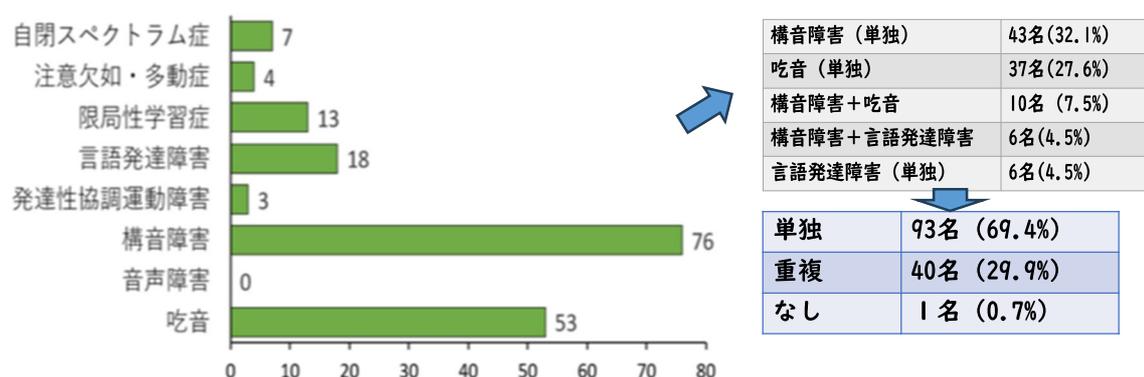


図1 ことばの教室の児童が該当した障害種

表2 相談歴

	通常学級	ことばの教室	独立性の検定 (χ^2 検定)
乳幼児検診での指摘あり	5/42名 (11.9%)	34/133名 (25.6%)	$p = 0.152, n.s.$
1歳6ヶ月	1/42 (2.4%)	9/132 (6.8%)	$p = 0.406, n.s.$
3歳	2/42 (4.8%)	27/132 (20.5%)	$p = 0.042, < .05$
5歳	3/42 (7.1%)	3/132 (2.3%)	$p = 0.232, n.s.$

	通常学級	ことばの教室	
小学校入学までに専門機関で療育・相談の経験あり	4/42名(9.5%)	72/128名(56.3%)	$p = 0.000, < .001$
心理	1/42 (2.4%)	19/128 (14.8%)	$p = 0.031, < .05$
作業療法	1/42 (2.4%)	16/128 (12.5%)	$p = 0.060, n.s.$
言語聴覚療法	0/42 (0.0%)	55/128 (43.0%)	$p = 0.000, < .001$
その他	2/42 (4.8%)	18/127 (14.2%)	

就学前に特別支援学級を勧められた

就学後に在籍学級変更を勧められた

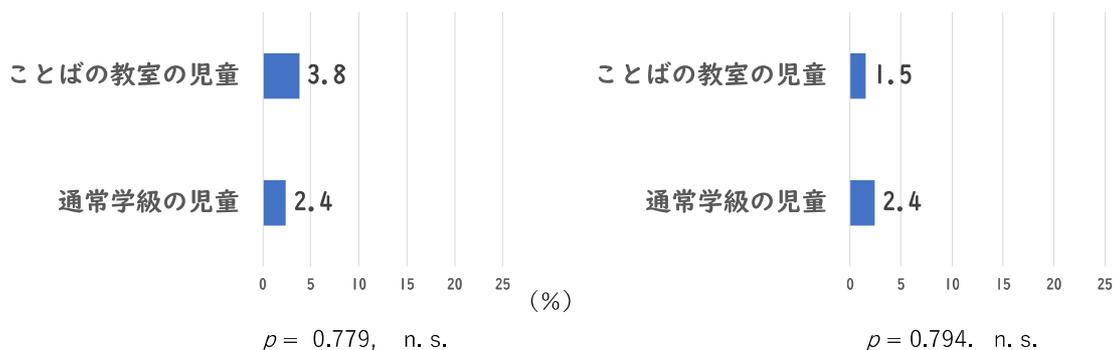


図2 就学前・就学後に特別支援学級を勧められた割合

今までに個別検査を勧められたことがある

今までに個別検査を受けたことがある

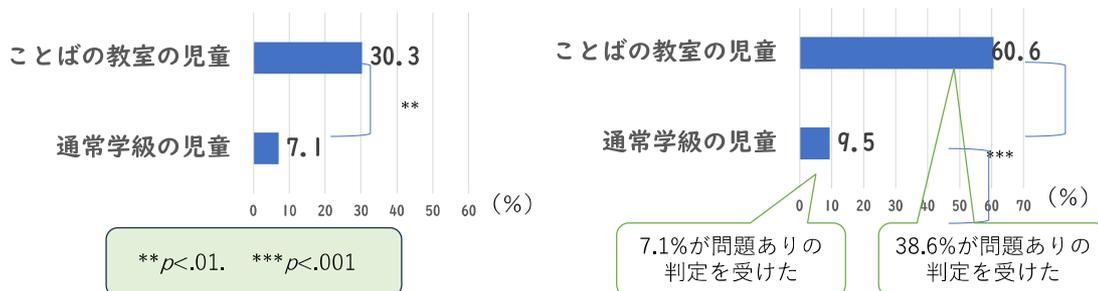


図3 個別検査を勧められた経験について

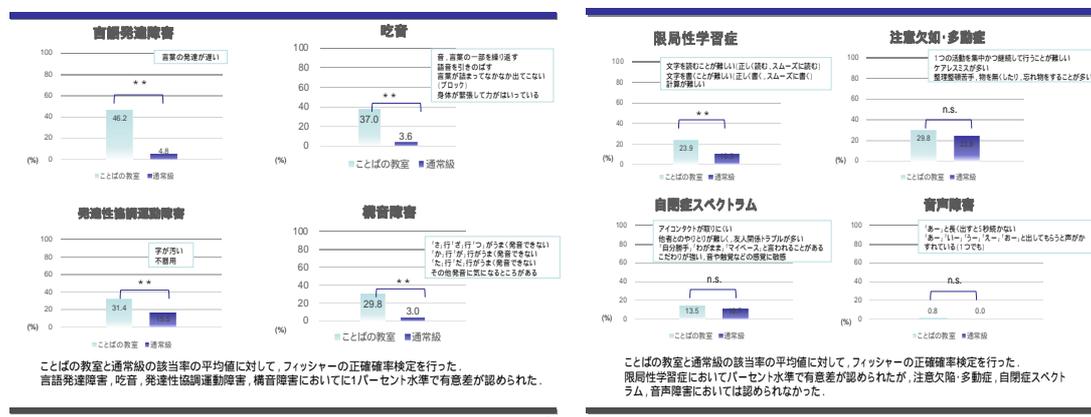


図4 各障害に該当した割合の比較

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 27件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 内山千鶴子、春原則子、後藤多可志、今富撰子	4. 巻 16
2. 論文標題 言語聴覚学科学生の会話能力向上プログラムの効果の検証	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 健康科学研究	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Miyamoto Shoko, Kobayashi Hiroaki, Sakai Naomi, Iimura Daichi, Tsuge Masayoshi	4. 巻 7
2. 論文標題 Estimating the Prevalence of Specific Learning Disorder, Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder, and Autism Spectrum Disorder in Japanese School-Age Children Who Stutter	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Perspectives of the ASHA Special Interest Groups	6. 最初と最後の頁 947-958
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1044/2022_PERSP-21-00287	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Iimura Daichi, Takahashi Saburo, Fukazawa Natsuki, Morita Natsumi, Oe Takuya, Miyamoto Shoko	4. 巻 37
2. 論文標題 Effect of linguistic factors on the occurrence of stuttering-like disfluency among Japanese-speaking preschool children who stutter	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Clinical Linguistics & Phonetics	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/02699206.2021.2001048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Iimura Daichi, Miyamoto Shoko	4. 巻 25
2. 論文標題 The influence of stuttering and co-occurring disorders on job difficulties among adults who stutter	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Speech, Language and Hearing	6. 最初と最後の頁 235 ~ 244
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/2050571X.2020.1852494	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyamoto Shoko, Tateda Miyako, Fukazawa Natsuki, Imura Daichi	4. 巻 63
2. 論文標題 A Case Study of a Child Showing Cluttering Symptoms with Reduced Frequency of Disfluency	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Japan Journal of Logopedics and Phoniatrics	6. 最初と最後の頁 132 ~ 142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5112/jjlp.63.132	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤多可志, 春原則子, 淵田隆史	4. 巻 15
2. 論文標題 言語聴覚療法学専攻学生を対象とした「改訂版 臨床場面における会話能力評定尺度」について - 信頼性と妥当性の検討 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 健康科学研究	6. 最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木下亜紀, 後藤多可志	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 AACを導入してコミュニケーション能力の向上が認められた先天性多発性関節拘縮症の幼児について: 訪問による実践報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 コミュニケーション障害学	6. 最初と最後の頁 123-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山千鶴子, 春原則子, 後藤多可志	4. 巻 28
2. 論文標題 言語聴覚療法学を専攻する学生の会話場面における非言語行動の特性分析 (2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リハビリテーション教育研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hyodo, M., Hisa, Y., Nishizawa, N., Omori, K., Shiromoto, O., Yumoto, E., Sanuki, T., Nagao, A., Hirose, K., Kobayashi, T., Asano, K., & Sakaguchi, M.	4. 巻 48(2)
2. 論文標題 The prevalence and clinical features of spasmodic dysphonia: A review of epidemiological surveys conducted in Japan.?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Auris, nasus, larynx	6. 最初と最後の頁 179-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.anl.2020.08.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古川 怜奈, 田口亜紀, 城本修	4. 巻 62(2)
2. 論文標題 VFE短縮版における訓練効果の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 音声言語医学	6. 最初と最後の頁 108-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 逢坂美加, 城本修	4. 巻 62(2)
2. 論文標題 ケプストラム分析に適した日本語文章の検討: 「北風と太陽」の比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 音声言語医学	6. 最初と最後の頁 99-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kondo, K., Mizuta, M., Kawai, Y., Sogami, T., Fujimura, S., Kojima, T., Abe, C., Tanaka, R., Shiromoto, O., Uozumi, R., Kishimoto, Y., Tateya, I., & Omori, K.	4. 巻 64(12)
2. 論文標題 Development and Validation of the Japanese Version of the Consensus Auditory-Perceptual Evaluation of Voice	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of speech, language, and hearing research	6. 最初と最後の頁 4754-4761
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1044/2021_JSLHR-21-	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯村大智, 宮本昌子	4. 巻 18(3)
2. 論文標題 吃音者の持つコミュニケーションの認識についての予備的検討: テキストマイニングによる非吃音者との比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語聴覚研究	6. 最初と最後の頁 146-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.6001200335	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iimura, D. & Miyamoto, S.	4. 巻 6(5)
2. 論文標題 The assessment of possible cluttering in Japanese adults who stutter: Analyzing the ratio of disfluencies	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Perspectives of the ASHA Special Interest Groups ? Global Issues in Communication Sciences and Related Disorders	6. 最初と最後の頁 1273-1280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1044/2021_PERSP-21-00018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iimura, D., Takahashi, S., Fukazawa, N., Morita, N., Oe, T., & Miyamoto, S.	4. 巻 36
2. 論文標題 Effect of linguistic factors on the occurrence of stuttering-like disfluency among Japanese-speaking preschool children who stutter	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Clinical Linguistics & Phonetics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02699206.2021.2001048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iimura, D., Kakuta, K., Oe, T., Kobayashi, H., Sakai, N., & Miyamoto, S.	4. 巻 53
2. 論文標題 Treatment for school-aged children who stutter: A systematic review of Japanese literature	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Language, Speech, and Hearing Services in Schools	6. 最初と最後の頁 561-583
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1044/2021_LSHSS-21-00044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯村大智	4. 巻 60(2)
2. 論文標題 吃音児・者の臨床研究の質の評価：バイアスリスクの評価を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 in print
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyamoto, S., Kobayashi, H., Sakai, N., Imura, D., & Tsuge, Y.	4. 巻 7(2)
2. 論文標題 Estimating the Prevalence of Specific Learning Disorder, Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder, and Autism Spectrum Disorder in Japanese School-Age Children Who Stutter	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Perspectives of the ASHA Special Interest Groups ? Global Issues in Communication Sciences and Related Disorders	6. 最初と最後の頁 in print
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1044/2022_PERSP-21-00287	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 角田 航平, 灰谷 知純, 酒井 奈緒美, 北條 具仁, 小林 宏明, 宮本 昌子, 森 浩一	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 学齢児吃音児が抱える困難を包括的に評価する質問紙OASES-S-Jの標準化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニケーション障害学	6. 最初と最後の頁 113-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiromoto Osamu, Suematsu Miho	4. 巻 61
2. 論文標題 Reliability and Validity of Vocal Fatigue Index (VFI) in Japanese Version	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Japan Journal of Logopedics and Phoniatrics	6. 最初と最後の頁 50 ~ 60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5112/jjlp.61.50	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiromoto Osamu, Okuda Azusa, Miyaji Ryusei, Abe Chika	4. 巻 61
2. 論文標題 Development of Japanese Short Sentences Suitable for Cepstrum Analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Japan Journal of Logopedics and Phoniatrics	6. 最初と最後の頁 18 ~ 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5112/jjlp.61.18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 城本 修	4. 巻 48
2. 論文標題 入門講座 リハビリテーション医療のエビデンス-言語聴覚療法・2 音声障害-音声障害の行動学的治療(音声治療)に関するエビデンス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 総合リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 151 ~ 157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1552201874	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gotoh Takashi, Haruhara Noriko, Ishii Rina, Mogami Asako, Matsunaga Ayumi	4. 巻 4
2. 論文標題 The Developmental Changes in Cube Copying Abilities of Japanese Children with Typical Development	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Asian Research	6. 最初と最後の頁 p20 ~ p20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.22158/jar.v4n2p20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gotoh Takashi, Uno Akira, Haruhara Noriko	4. 巻 7
2. 論文標題 Word Sound Retrieval Abilities in Japanese Children With Developmental Dyslexia - Report Based on the Use of Picture Naming Tasks in Discrete Condition -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Developmental Differences	6. 最初と最後の頁 235 ~ 247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3850/S2345734120000124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤 多可志、春原 則子、高崎 純子、今富 摂子	4. 巻 17
2. 論文標題 原著 言語聴覚療法を専攻する学生の会話能力向上を目的としたビデオ教材の開発と教育効果の検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語聴覚研究	6. 最初と最後の頁 154 ~ 161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.6001200286	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤多可志、春原則子、高久聖也、土佐林有紀、荻布康子、廣瀬美咲	4. 巻 14
2. 論文標題 知的障害特別支援学校と外部専門家の連携に関するアンケート調査 - 知的障害特別支援学校教員は外部専門家の言語聴覚士に何を望んでいるのか - .	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康科学研究	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内山千鶴子、春原則子、後藤多可志	4. 巻 14
2. 論文標題 言語聴覚療法を専攻する学生の会話場面における非言語行動の特性分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康科学研究	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林 宏明	4. 巻 11
2. 論文標題 吃音のある学齢児の指導 (訓練) ・支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子どものこころと脳の発達	6. 最初と最後の頁 48 ~ 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34572/jcbd.11.1_48	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本昌子、飯村大智、深澤菜月、趙成河、園山繁樹	4. 巻 45
2. 論文標題 吃音を伴う場面緘黙児童への介入経過 - Lidcombe Programを適用した効果の検討 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害科学研究	6. 最初と最後の頁 227-239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 内山千鶴子、春原則子、後藤多可志
2. 発表標題 言語聴覚療法を専攻する学生の非言語行動の特性分析からみた会話における授業効果の検討
3. 学会等名 一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会 第35回教育研究大会・教員研修会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐野剛雅、後藤多可志、宇野彰、春原則子
2. 発表標題 音韻障害を認めない特異的言語障害 (SLI) 2例の障害機序
3. 学会等名 第21回発達性ディスレクシア研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 春原則子、宇野彰、後藤多可志、金子真人
2. 発表標題 発達性ディスレクシア児の音読速度に関わる認知機能の検討
3. 学会等名 第21回発達性ディスレクシア研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久保山茂樹、滑川典宏、牧野泰美、山本晃
2. 発表標題 難聴・言語障害学級及び通級指導教室の実態(2) - 難聴・言語障害学級及び通級指導教室担当者の現状 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯村大智、石田修
2. 発表標題 改訂版エリクソン・コミュニケーション態度尺度(S-24)の日本語の標準データの収集と信頼性・妥当性の検討
3. 学会等名 第47回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮本昌子
2. 発表標題 発達障害を併存する吃音のある児童の発話特徴
3. 学会等名 音声言語医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 後藤多可志, 宇野彰, 春原則子, 三盃亜美, 大六一志, 横井美緒
2. 発表標題 ユニバーサルデザインデジタル教科書体が発達性読み書き障害児の音読の正確性・流暢性・読解力に与える影響
3. 学会等名 第20回発達性ディスレクシア研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇野彰, 春原則子, 金子真人, 後藤多可志
2. 発表標題 発達性読み書き障害のある児童における無意味文字列の速読訓練による音読流暢性改善の効果
3. 学会等名 第20回発達性ディスレクシア研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内山千鶴子, 春原則子, 後藤多可志
2. 発表標題 言語聴覚療法を専攻する学生の会話場面における非言語行動の特性分析(2)
3. 学会等名 一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会 第34回教育研究大会・教員研修会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 城本 修
2. 発表標題 声道の準狭窄による発声技法の理論と実際
3. 学会等名 日本言語聴覚学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯村大智, 宮本昌子
2. 発表標題 テキストマイニングによる吃音者と非吃音者におけるコミュニケーションの認識の比較
3. 学会等名 第46回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯村大智, 角田航平, 大江卓也, 小林宏明, 酒井奈緒美, 宮本昌子
2. 発表標題 国内における学齢吃音児に対する介入方法について: システマティック・レビューによる検討
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 角田 航平, 灰谷 知純, 小林 宏明, 宮本 昌子, 森 浩一
2. 発表標題 学齢期吃音児に対する介入方法の無作為化比較試験のプロトコル
3. 学会等名 日本吃音・流暢性障害学会第9回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋凱, 青木瑞樹, 宮本昌子
2. 発表標題 リズムカルな音読が吃音症状に与える影響 短歌を題材に
3. 学会等名 音声コミュニケーション研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 淵田隆史、春原則子、後藤多可志
2. 発表標題 言語聴覚療法学専攻学生の会話演習場面の分析; 会話を適切に展開させるための技法に関する具体的指導項目の検討 ~
3. 学会等名 第21回日本言語聴覚学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 内山千鶴子、春原則子、後藤多可志
2. 発表標題 言語聴覚療法を専攻する学生の会話場面における非言語行動の特性分析
3. 学会等名 第21回日本言語聴覚学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林宏明
2. 発表標題 ことばの教室や病院などにおける吃音のある児童・生徒の指導・支援の実態調査
3. 学会等名 日本吃音・流暢性障害学会第8回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯村大智、角田航平、大江卓也、小林宏明、酒井奈緒美、宮本昌子
2. 発表標題 学齢吃音児の介入研究のバイアスリスクの評価：国内文献のシステマティック・レビューを通して
3. 学会等名 2020年度障害科学学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮本昌子、飯村大智、深澤菜月
2. 発表標題 吃音のある児童の非流暢性生起に関する言語学的要因の検討
3. 学会等名 第65回日本音声言語医学会総会・学術講演会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 後藤多可志（市川裕二 緒方直彦 宮崎英憲、全国特別支援教育推進連盟）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ジアース教育新社	5. 総ページ数 272
3. 書名 特別支援教育における学校・教員と専門家の連携	

1. 著者名 畦上恭彦、今富摂子、後藤多可志、小林宏明、宮本昌子（深浦 順一、内山千鶴子、城間将江、城本修、立石雅子、長谷川賢一）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 764
3. 書名 図解言語聴覚療法技術ガイド	

1. 著者名 後藤多可志	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白峰社	5. 総ページ数 48
3. 書名 高校生のための大学テキストvol.2 高校生のための言語療法学	

1. 著者名 城本修（城本 修，原 由紀編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 324
3. 書名 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第3版「音声障害の治療」	

1. 著者名 宮本昌子 (米田宏樹, 川合紀宗編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 243
3. 書名 新・教職課程演習第6巻 特別支援教育「言語障害ってなに？」	

1. 著者名 藤田 郁代 (監修), 城本修, 原由紀 (編著), 西澤紀子, 今村亜子, 岩城忍, 石毛美代子, 苅安誠, 柳田早織, 金子真美, 飯田由恵, 阿部千佳, 柴本勇, 今富節子, 小澤由嗣, 緒方祐子, 椎名英貴, 小林宏明, 飯村大智, 宮本昌子, 他13名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 344
3. 書名 発声発語障害学 第3版	

1. 著者名 Yefim Kats & Fabrizio Stasolla (編著), Giulia Binaghi, Marco Guida, Eiko Tatematsu, Kiyoji Koreeda, Shigeru Ikuta, Chisato Ouchi, Jinko Tomiyama, Yayoe Katagiri, Shoko Hoshi, Naoki Sakai, Chiaki Kisaka, Nobuo Hara, Hiromi Nakamura, Keiko Ozaki, Jenn Gallup, Celal Perihan, Shoko Miyamoto, Masayoshi Tsuge, 他14名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 IGI Global	5. 総ページ数 391
3. 書名 Education and Technology Support for Children and Young Adults With ASD and Learning Disabilities	

1. 著者名 藤田 郁代 (監修), 深浦 順一, 植田 恵 (編著), 菅野倫子, 立石雅子, 安立多恵子, 東川麻里, 石坂郁代, 相馬有里, 木場由紀子, 阿部晶子, 小森規代, 内山千鶴子, 城本修, 福永真哉, 今井智子, 前新直志, 稲本陽子, 椎名英貴, 鈴木恵子, 他6名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 308
3. 書名 言語聴覚療法 評価・診断学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	今富 摂子 (Imatomi Setsuko) (30509633)	目白大学・保健医療学部・准教授 (32414)	
研究分担者	飯村 大智 (Iimura Daichi) (40881842)	筑波大学・人間系・助教 (12102)	
研究分担者	小林 宏明 (Kobayashi Hiroaki) (50334024)	金沢大学・学校教育系・教授 (13301)	
研究分担者	後藤 多可志 (Goto Takashi) (50584231)	目白大学・保健医療学部・准教授 (32414)	
研究分担者	畦上 恭彦 (Azegami Yasuhiko) (70337434)	国際医療福祉大学・保健医療学部・教授 (32206)	
研究分担者	牧野 泰美 (Makino Yasumi) (80249945)	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・研究企画部・上 席総括研究員 (82705)	
研究分担者	城本 修 (Shiromoto Osamu) (00290544)	県立広島大学・保健福祉学部(三原キャンパス)・教授 (25406)	
研究分担者	趙 成河 (Cho Sonha) (20825070)	筑波大学・人間系・特任助教 (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------